

平成 29 年 2 月 11 日（土）協働のまちづくり活動支援事業報告会を開催しました！

■ 開催の主旨

市民と行政による協働のまちづくりを推進するため、NPO・市民活動団体等と市民の皆さんとの交流と地域コミュニティの再生や住民主体のまちづくりを考える機会として、市が支援した協働のまちづくり活動支援事業の成果発表となる平成 28 年度報告会を開催しました。

1 日時・場所

- 平成 29 年 2 月 11 日（土） 午後 1 時 30 分～4 時 30 分
- 江別市民活動センター・あい（江別市野幌町 10 番地の 1 イオンタウン江別 2 階）

2 プログラム

- 協働のまちづくり活動支援事業の事例報告
 - 報告団体（報告順）※カッコ内は連携団体
 - ①語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭
 - ②北海道サブカル EXPO 実行委員会
 - ③江別創造舎（のっぽろ七丁目放送局）
 - ④フォーラム野幌の森（日本野鳥の会 江別支部）
 - ⑤江別子ども劇場
- 事業報告会コメンテーター（左から、内田氏、佐藤氏、星氏）



- 内田 司 氏（札幌学院大学人文学部人間科学科 教授）
佐藤 功 氏（江別市自治会連絡協議会 会長）
星 優子 氏（日本リサイクルネットワーク・えべつ 代表）

●各団体の事業報告及びコメンテーターの質疑・コメント（概要）

① 【語り・ひとり芝居ぐるーぷ うるうる亭】

「えべつ俄（にわか）」



発表者:今年度の公演は12回行おうと計画していましたが、12月で12回の公演は終わり、あと2ヶ所ほど今年度中に出来そうです。10月9日に北見に行き、夢ふうせんこぶしの光の苑本館・別館で公演を行いました。その時の活動は、北海道新聞オホーツク北見版の記事に、掲載して頂きました。また、江別第一中学校の生徒も取材に来てくださり、壁新聞にも載りました。7月9日にアトスペース外輪船で公演を行った際には、まんまる新聞でその広告を掲載しました。その時にえべつちゃんも一緒に出てくださり、また

江別子ども演劇クラブもえべつ俄を披露してくれました。夕張のレインボーハウスヒルズの公演では、昔の夕張鉄道の駅名を暗唱するシーンで、お年寄りの方が一緒に暗唱してくれて、楽しんでもらうことができました。このような身近な話題を楽しんでいただけるお芝居形式をやっておりますので、これからも色々なところで出来たら良いと思います。

大体10ヶ所以上は公演したいと思っておりますが、夕張や北見など二泊して公演してきましたので、移動費が掛かりました。江別市の姉妹都市グレシャム市にも公演に行きたいですが、お金がありません。入場料金をもらっている公演はしていないので、他の助成金を当てにしていきたいです。また私達の実績をかっていただき、江別観光特使にも任命されました。今後も、このうるうる亭のえべつ俄の活躍にご期待ください。

星:是非これからも楽しい活動をしていって欲しいですが、新聞に取り上げてもらうのを待つのではなく、江別支局の方に資料を持って積極的なアプローチやパンフレットに協賛してくれる企業を募集するなど、そういう方面に力を使っていってはいかがでしょうか。

あと、最後の年ですが、今までやってきたことに加えて何かを上乗せする形でまちづくり支援事業に申込むことも可能だと思いますので、新しいことに取り組んでいくことも含めて活動の幅を広げ、自ら足を伸ばして広報活動の方も頑張っていってはいかがでしょうか。

発表者:ありがとうございます。江別支局の方にも積極的に広報したいと思っております。

佐藤:素晴らしい活動で道内外へ伝えられていると聞かせていただきましたが、観光特使になられて社会的認知が進むと、違ったステージに上がれるのかなと思います。社会貢献的な事業で出してもらえる補助金を見つけるなど、そういう活動に踏み込むことはできないでしょうか。

発表者:現在それは探っており、例えば、文化振興基金やはまなす基金などの資料を当たっているので、そのような方向に行きたいと感じております。

星：例えば、寸劇の中に面白おかしく企業名を入れさせていただいて PR するのも、やぶさかではないのでは。そういう発想を見つけていくのも何かのきっかけになるのではないのでしょうか。

発表者：そういう話の持っていき方を、今度教えて頂きたいです。

来場者：上演舞台の話があったが、その時に江別の特産品を持って原価で販売する。観光特使なら原価でも入るのではないか。それから、地域のコマースを付けて活動し、利益を得る。それに一歩踏み出すことには勇気が入りますが、上手く行けばどんどん上手くいくと思います。

②【北海道サブカル EXPO 実行委員会】 「北海道サブカル EXPO」

発表者：北海道サブカル EXPO 江別を今回開催させていただきました。開催日時は去年の 9 月 22 日。会場は野幌周辺エリアのかわなか公園から野幌駅までを会場として開催しました。このイベントを開催するに当たりまして、かわなか公園・湯川公園・錦山天満宮・屯田兵資料館・国道 12 号線等の管轄する各事業所に、利用許可の書類を提出しました。また、大規模なので江別警察署にも書類を提出しました。この事業について、江別市に後援申請させていただきました。その他一般企業に、広告費・協賛金も頂きました。



その他北海道ダイハツ株式会社からも広告費を頂きました。また酪農学園大学漫画倶楽部にイベントチラシのイラストと、当日のイラスト展示を依頼しました。その他酪農学園大学文化研究会、こちらにはステージ音響と照明の運営を依頼しました。また、電話で野幌高校に当日の設営の依頼をしました。その他、当日までの準備にチラシやのぼり、出店料等、一般事業などの補助金は私が準備しました。イベント当日はコスプレの写真撮影や、ステージでのライブが行われ、このイベントの全体参加数は約 750 名、江別市内の人も多く来場頂きました。今回のイベントでは学生や市民が多く参加されました。江別は展示などのイベントは多いが、参加型のイベントが少ないので、また開催して欲しいとのお声も頂きました。

反省点につきましては、街の活性化について野幌商店街側と十分な事前連携が出来ず、人の流れが作れませんでした。また大学との繋がりも十分には出来ませんでした。その他、屋台を出店して頂きましたが、女性参加者が多いためクレープなどデザート系に人気集中してしまいました。今後の継続性について、今回の規模が大きくなってしまい、アンケートをとることができませんでしたが、来年も開催して欲しいという声は多く頂きました。参加した方が Twitter などで写真などを多く投稿し、宣伝効果が生まれており、次回開催時には今回を上回る参加数になると思われます。江別市の PR について、今年度より江別観光協会に入会しましたので、江別市の PR やオリジナルキャラクターを使った商品開発など、今後について助言を頂きながら検討をいたします。参加人数は年々予想を上回るものになっております。収支の余った金額については、看板が少なく、イベント

をやっているかわかりづらいとの声を頂きましたので、看板の購入費に当てさせていただきます。来年度以降、もし補助金を申請するのであれば5万円、再来年は3万円と少しずつ減らし、助成金に頼らない形にしたいと思います。また、鉄道横の防風林を整備するそうなので、2020年頃にはEBRIのほうまで、コスプレイベントを拡大したいと思います。

佐藤：北海道サブカル EXPO は、江別市にとって貴重なお祭りだと私は思います。大学生の参加が望まれるし、江別の補助金を貰うこともなく、独立して企業や商店街と連携しながら楽しい憩いの祭りができるのではないかなと思います。協働のまちづくり活動ですから、今回参加された方の男女別や年齢別、地域別などを江別市や江別市民の方も知らなければいけないと思います。もし、これが分かれば教えてほしいと思います。

発表者：今回はアンケートを実施しなかったため、地域別男女別はわかりませんが、年齢層は20代から30代、10代の方も居ますし、80代の方もいらっしゃいました。

内田：大学でサブカルチャーに関心を持つ学生に、勇気づけてくれたと思います。ぜひ江別を拠点に活動されて、若い方たちと連絡を取って、恒常的な関係性を作って頂けないでしょうか。また、商店街のようなどころなどの繋がりを広げて、若者が江別のサブカルチャーで活躍できる側面を作って頂ければと思います。

発表者：個人の繋がりについては、Twitter を運営しており、そちらでフォローやリプライをして頂ければ繋がると思います。商店街については現在工事中でイベントが出来ませんが、2,3年後を狙って活動をする予定です。

③【江別創造舎】（連携先：のっぽろ七丁目放送局） 「江別の文化・歴史を語る！つなぐ！語り部の記録」



発表者：江別創造舎は2007年1月20日、「個が生き、個が活かされる地域活動を通じて、社会貢献をする」ため、江別カルタの製作など地域文化振興活動を行っております。

のっぽろ七丁目放送局からコメントを頂きました。「今回の撮影で貴重なお話を伺うことが出来、大変勉強になりました。歴史の生き証人の生の話は現実感があり、それぞれの時代の様子がリアリティを持った言葉で聞いたこと、また芸術家としての心の内側が覗けたこと等、大変価値のある記録を残せたと思っています。記録した映像は複数台のカメラで収録したため、19時間あります。各所に配布するDVDはそれを各方面20分程度に編集し、1枚にまとめます。100枚程度制作し、学校などに配布する予定です。それをのっぽろ七丁目放送局で複数回放送し、アーカイブに残します。

それぞれのお話は大変貴重なのでそのままの DVD も制作しお話をすべて残したいと考えております。」

私たちは、江別カルタを用いるなど、江別の文化歴史の伝承ツールを使い、伝える活動をしています。今回の語り部に関して、人を繋ぐ語り部の記録として地域文化振興活動の一助を担い、従来のカルタと違う形で江別の文化歴史を伝えるということ、心に留めました。この事業実施によって、改めて江別の市民の方に文化歴史を再認識する機会を提供出来たと考えております。この結果出来上がったものは、教育委員会や福祉施設はじめ、色々な民間組織に配布し、地域コミュニティの拡大を期待しております。今回の事業では、のっぽろ七丁目放送局と連携し、江別市在住の4名の方を選び、取材撮影を行いました。その内容を収めたDVDを作成し、2月25日に情報図書館を使ってお披露目をしようと思います。今年度は、関矢さん、高間さん、米澤さん、手島さんの4名を選びました。

この事業の継続性ですが、今回は4名でしたが、これからもいろいろな重鎮の方々を取り上げていきたいと思っております。今回の事業の収支ですが、自己資金と本事業の助成金を合わせまして26万4000円を使い、DVDの製作やポスター・チラシ等の製作に使わせて頂いております。

佐藤：昨年までの事業で名所旧跡を訪ねるDVDを作成したと思っておりますが、これは江別市民も利用しておりますか。

発表者：江別カルタを題材としたDVDを作成しました。カルタのほうも利用して頂いております。

佐藤：これは一つの教育的な価値があると思っております。これらを学校や自治会などに広くお貸しして、歴史を語っている本当の意味を聞いてもらうということが、これからの大事なことだと思います。江別の市民に広くそれを利用してもらうことが、今後の大事なことだと思いますが、その点はよろしいですか。

発表者：従来のカルタは、全ての学校に配布することができなかったのですが、今回のDVDを各小中学校に配布し、カルタと合わせて教育活動に利用していきたいと思っております。

内田：今回の江別の文化と歴史をDVD化という形で残されるのであれば、もう少し継続を考えられているかと思っております。一回目のインタビューの相手がランダムに見えましたが、どういう全体構想で行おうとしているのでしょうか。また、江別のこれからを担う、例えば高校生を取材のときに同席させるなど、次の世代を育てる可能性は無いのか、お話いただければと思っております。

発表者：最初の質問でもありましたが、もちろん継続的なことは考えており、今回はかなり多くの人選の資料を持っております。その中で率直に言えば、まずは高齢の方を優先しております。

内田：人が先ということですか。

発表者：人より題材を選んでおります。その題材の中で優先しております。次に貴重なお言葉を残すということで、当然ご高齢の方を選択しております。私達のところには江別の歴史を執筆されて

いる方がいらっしゃいますが、そういった方でも、資料を紐解いた上でシナリオを持ってインタビューをしております。そのような構成で行っております。

また、高校生のインタビューという話ですが、それは継続的な延長線だと思っております。私達が今やっていることでさえ、かなり時間や体力を費やしております。その中で新たな学生を指導しながらやっていくということは形・姿・声をすべて残すこと、またコンプライアンスの面もあります。責任を持った業務だと思っておりますので、その事を認識した上で、学生を取り込むことはかなりの準備と責任を持って対応しないと難しいと思います。そのためすぐには出来ることではないとお答えさせていただきます。ただ検討はさせていただきますが、違った形になるかと思っております。今後考えてみます。

司会者：一つお聞きしたいのですが、お披露目会のある 25 日までに DVD を制作されるかと思えます。各公共施設には配布されると思いますが、インターネットでの配信予定はありますか。

発表者：先程のっぼろ七丁目放送局からのメッセージがありましたように、皆さんたちがネットを通じてご覧頂く機会はあるかと思えます。

司会者：のっぼろ七丁目放送局を検索してみれば良いということですね。

発表者：そうですね。その他に情報図書館であるとか視聴覚の設備がある公共施設にはこの DVD をおいて、その場で皆さんに見て頂くという対応をさせていただきます。

④【フォーラム野幌の森】(連携先：日本野鳥の会 江別支部) 「未来に残そう野幌原始林」

発表者：北海道が開拓されてから自然の森はほとんど姿を消しました。こういう都市近郊でこれだけの広さの森というものは、北海道では一番だと思えますし、世界的に見ても、都市のそばにある森として有数の森だと考えております。

野幌原始林は昔北海道が自然公園に指定し、管理体制も非常に充実しており、多くの職員によって管理をされていたのですが、今では博物館に業務委託をしており、担当が二人しか居ません。森の見回りなど管理をすることが非常に厳しい時代に入っています。

それに対し、最近はバイクやノルディックウォーキングなどの利用者がおり、森や花の観察のため、あるいは空気が素晴らしいと見に来られる方がたくさんいらっしゃいますが、二人にすべての管理をお願いすることは厳しいです。私達は市民団体ということで、管理者が工事をやりたいときなどに、事前に連絡いただき、一緒に立ち会うことを十何年やってきています。しかし、それで



も非常に心配なため、昨年は森を守っていくためにマナーのパンフレットを作成し、公民館などに置き、森に行く人に見て頂き、森を守っていく活動をしました。

今年度は講演会を中心にして活動を行いました。また、リーフレットを少し修正し、使いやすいようにしました。まず 11 月 6 日に小島さんと松山さんを講師に呼び、講演会を行いました。この後ポスターを作り、カラーのポスターとパンフレットを作りました。小島さんは現在、餌付けをテーマに研究されており、「野生動物の付き合い方を考える～餌付けが引き起こす人と野生動物の軋轢」で講演をお願いしました。我々が餌付けの問題をテーマに取り上げたのは、写真撮影のために森に入る人が非常に多いからです。その人がいい写真を取りたいためにエサを持って鳥を呼ぶと、どのような問題が起きるのかを含め、お話をさせて頂くためにお呼びしました。

講演会の予約の電話を頂いていたため、当日は多くの席を用意したのですが、この時期には珍しい大雪で、予想よりも半分減ってしまった状況で大変残念でしたが、非常に面白い大事な講演だったと思います。

講演していただいた野鳥の会江別支部の松山さんから、コメントを頂きました。「今回の講演では前回に引き続き、写真から環境保全のアプローチをしました。今までの報道写真の歴史から、何が真実か、何がフェイクなのかを紐解き、写真が持つ正しい認識の仕方をいろいろな事例で考えてもらい、自然の動植物を撮影することが、どのような意味を持つのかということを考えてもらいました。自然の動植物を取る姿勢がいかに大切なのかを認識してもらえる良い機会になりました。今回新たにポスター・チラシに採用した写真から興味を持って参加していただいた写真愛好家の皆様にも感謝いたします。これからも、色々なアプローチで自然を大切にすることを、広めていきたいと思っています。」

補助金 12 万円に対してパンフレットで多くお金をかけ、ポスター含めて総計 22 万 6200 円の活動をさせて頂きました。

佐藤：森を守ることは一番大事な事だと思います。このパンフレットや講演会を行っている中で、パンフレットを身障者用に一部変更したとありますが、どういうことでしょうか。

発表者：従来のパンフレットの地図に身障者のトイレの場所が書いてありませんでした。地図も小さく、身障者のための地図を用意していませんでしたので、身障者にも分かるように作らせて頂きました。

佐藤：計画の中にはそのようなものがなかったので、新たな計画を作ったのかなと思いました。講演会は当日雪が降っており、聞きに来る人が少なかったのは残念ですが、100 人ぐらい入る会場だと思うので、もう少し人を集める努力をすることが大事だと思います。

また、このマナーを守って未来に残そうということは、大変大事な事だと思いますが、特に小学校や中学校の生徒が、マナーを守って原始林を利用することが、一番大事な事だと思います。江別市の教育委員会などとも連携を取り、小中学校にもパンフレットを配布してもらおうなどの努力はされておりますか。

発表者：まだそこまではしておりません。もし来年認めていただければ、パンフレットをもう一つ作ることを考えて、教育委員会に相談したいと思っております。

佐藤：江別市の財産ですから今後とも、きちんと利用していくことが大事だと思います。パンフレットや講演会を多くの人に活用してもらおうということが大切だと思います。活動は大変素晴らしく、今後も続けてもらいたいと思いますが、もう一つ努力をして頂きたいと思います。

星：選考会の時に、他の団体と協力して何かをすることの提案をさせていただきましたが、人数が少ないとアピールや宣伝は大変なところがあると思います。まだ一年ありますが、他の団体と連携も考えているのでしょうか。

また、佐藤委員と同じになりますが、子供たちの教育の中に足を踏み入れていくということも、未来のことを考えていく上で大切な事だと思います。啓蒙活動と書かれていますが、パンフレットを配るだけでなく、何か具体的に考えがあればこの先一年間の活動の中で教えて頂きたいです。

発表者：教育委員会の方に相談してみたいと思います。小学校の森の中の見学も結構あるのですが、ほとんどが歩いて終わってしまいます。人数も多いため、説明が難しいと思いますので、そういう部分も含めて話し合っていきたいと思います。おっしゃったように意見交換をさせて頂いて、先程の江別創造舎さんのDVDのようにそういったものを作ることも含めて考えてみたいと思います。

星：こちらの「マナーを守って未来に遺そう」というフレーズがとてもわかりやすく、「何故こういふことをしなければいけないのか」と書かれているので、これを基に子供たちにも分かりやすいようなパンフレットを作ることを考えていくと、教材のほうも少しプラスになるのではないのかと思いますので、まだ一年あるので頑張ってください。

来場者：森を守るのは大変な作業です。江別市民に聞いても野幌森林公園は札幌や北広島が大半という認識が現実にあります。これらのほとんどが野幌、江別のものだということを認識させるにはどうすればよいのかと思います。

次に、野幌森林公園がなぜあそこに残っているのかということ、語り部さんなどで紹介してもらう必要があると思います。それをやれば興味関心を持ってくれると思います。それともう一つ、自然ふれあい交流センターでは、子どもやお年寄りが餌付けをやっています。表現を気にしながら、注意を促すような、地道な努力をしないといけないと思います。

また、パンフレットを置く場所として、そこに来る人の半分が必ずトイレに行きます。そこに置くのは良いのではないのでしょうか。交流センターまで行くのは難しいと思います。また、学校の話がありましたが、野幌小学校が実際に活動しております。学校から出向いて森の中に行って小鳥を守る。そちらとの連携も必要だと思いますし、春になりますと、高校から相当数の生徒が部活動のランニング等の理由で来ます。その高校との連携もあれば、関わってくるのが違ってくると思います。

最後に、旅行者にパンフレット配布の協力をしてもらうことも大事だと思います。フクロウを見に行くために、夜行性にも関わらず、昼に見るために物をぶつける人が居ます。飛び立つところを撮ろうと思う方も、現実にあります。

今やられていることの努力では本当に大変だと思いますので、もっと人を増やしていかないと守っていけないと思います。後 14,5 年したら、枯野になるのではないかと危機感を感じております。一層のご努力をお願いいたします。

⑤【江別子ども劇場】

「江別子ども演劇クラブ」



発表者：江別子ども劇場は、子どものための優れた舞台芸術の鑑賞をする団体です。親子で会費を積んでいき、プロの劇団を呼び、優れた文化を子どもが鑑賞する団体です。それが一つの活動です。子供たちがそういった芸術を父母と一緒に楽しめます。

活動は、自主的な活動をするのも一つの柱にしており、高学年で支笏湖に行き、カヌーに乗ったりして二泊し、今の便利なことに慣れている子供たちに、何もないところからやってみようというキャンプを行っております。その他、

「おはなしクッキング」では、色々な絵本の食べものを基にした料理を楽しんだり、それからハロウィンパーティでは、子供たちのアイデアで仮装して集って楽しんだりしております。

こどもまつりは江別を代表する祭りだと思えますが、こどもまつりは子ども劇場が生まれたきっかけということもあり、40年間休まずに、民間の手で子ども劇場が中心となり、やっております。市内の4つの大学の学生サークルも参加してくれて、連携してやっています。そして子ども文化祭は、子ども劇場がスタッフになり、江別市内の子ども劇場以外の団体も一緒に集まり、文化を紹介するものです。その運営もしております。

7月9、10日には江別の「手作りフェスティバルアートスペース外輪船」のイベントに、うるうる亭と一緒に江別子ども劇場で参加しました。一般の方も来てくれて、おひねりもいただけて、子どもたちも大喜びでした。8月20日には、うるうる亭のオープニングに皆で衣装を変えて出演しました。11月13日はえぽあホールで子ども文化祭を行いました。今年はいうるうる亭のえべつ俄の子ども版えべつ俄をやり、代表の北本京子さんというプロの方に演出をして頂きました。涙を流すほどの厳しい練習を重ねてえべつ俄を見事に上演し、えぽあホールに450名がいる前でたくさんの拍手を頂きました。

1月13日には高齢者施設ケアハウスを慰問しました。子ども達が演じているところを笑ってもらい、いい経験になりました。俄だけでも喜んでくれますが、違う要素を入れるために、絵本も読み、落語の小噺もひとりひとりが覚えて紹介しました。女の子達も、それぞれ和服に着替えてから発表しました。

明日2月12日のこども劇場の40周年パーティでも披露しようと思えます。そして3月30日は、「おはなしいっぱい」という情報図書館のイベントにも参加する予定です。これは2、3歳の小さな子供が来るものなので、それに向けて新しい演目も練習しております。絵本も読むだけでなく、感情を込める等、中身のあるストーリーにして紹介したいと思えます。

この事業を達成出来たかどうかについてですが、一般の子が演劇をするために子ども演劇クラブの会員になり、それを通じて他の子ども劇場の活動も参加してました。すると、すごく楽しく、別の子も参加しようかなと言ってくれました。コミュニケーションを積極的に取りたいと思う子が増えた現れだと思えます。また子ども文化祭では、通常の音楽や合唱など団体で行うものに対し、ひとりひとりの個性が見て取れる文化を一般市民に楽しんでもらい、好評をいただきました。

この活動は親子と手づくりでやっており、初めてプロの指導受け、素晴らしい発表が出来ました。

去年は「カエルのフレンツェル」、一昨年は「金のガチョウ」を発表し、子どもたちも良い経験ができたと思います。自分達が思いもしなかった素晴らしい事業を展開できたと思っております。これからは私達の力で今後も演劇クラブは継続していきたいと思っております。子ども達が人と人との関わりを大切にすることで、文化の楽しさを伝えて行けたら良いと思っております。現在活動している子どもたちもとても楽しんでおり、さらに活動を広げないといけないと思っております。

星：お話を聞いただけで本当に楽しく活動されていることがひしひしと伝わってきました。3年間の支援事業が終わっても、まだ続ける子どもがいれば続けていきたいという前向きな意見を頂き安心しましたが、今まで3年間の実績を活かし、これからどのように今の活動の幅を広げていきますか。

また、広げていくために会員数を増やすことが当初からの問題でしたが、会員は一年の間で増えたのかどうか。前回のお話で、小学校でのワークショップなどを利用して会員を増やすということも考えていることを伺っていましたが、積極的に会員数を増やすということに動きがあれば、教えてください。

発表者：喜んで活動している子が入ってきたのが、5月14日に行ったワークショップでした。大麻体育館の2階だったのですが、まんまる新聞に掲載したところ、それを見てくれて参加して頂きました。ワークショップを行うことを江別市内にパンフレットを配りましたが、そのパンフレットでは来てくれませんでした。

小学校のワークショップは、7月28日に上江別小学校でも行いました。江別市で一番児童数の多い小学校で全校生徒に配りましたが、参加したのは5名ぐらいでした。来てくれたのが子どもたちのみで親御さんが参加してくれなかったため、それが上手く会員には結びつかなかったのが現状でしたが、5年生の子が親子で会員になってくれたので、その方のPTAの活動でもワークショップをさせていただきます。まだ来年も在学しておりますので、来年度も、もし出来るのであればやりたいと思います。子ども劇場に入るには会費が発生し、親御さんの理解が必要なので、ぜひ親子で参加することを呼びかけていこうと思います。

またパンフレットも積極的に配っており、子ども劇場のパンフレットもありますので、来年度もまた手渡で配ったり、色々な所に置いていこうと思います。毎日続けることが大切なので、根を絶やさずにやっていこうと思います。

星：頑張ってください。保護者の方の協力を得ることが非常に大切なことだと思います。今、共働きの家庭が非常に多くなっているため、どのようなアプローチをするのかが一つのキーワードになると思います。ぜひ頑張ってください。

発表者：働いている方が活動しやすいように、劇団を呼び、生の舞台を鑑賞する際にはスケジュールは土日に組むようにしています。

佐藤：今年度スタートした時には6名でしたが、今は何名になっていますか。

発表者：他の習い事をするから忙しいとの理由で、今は4名になりました。

佐藤：活動自体は素晴らしいが、自分達で自主的に想像力を育む活動において4名では難しいと思います。会員があまりにも少なすぎる感じがしますが、一生懸命頑張って活動してくれたことは少しでもまちづくりの活動の力にはなったと思います。今後も続けるのであれば、色々なことを考えながら条件を揃えないと、活動をやりたくても出来なくなってしまいますので上手くやって欲しいと思います。

<コメンテーター総評>

【星 優子 氏】

市民活動の資金集めは、一番大切なことだと思います。私も始めたときは、お金は後からついてくると言われていて、一生懸命やったことが後からちょっとづつではありますがついてきています。これから事業を大きくしたり広めたりするときには、いろいろな団体と情報交換をしたり、市民活動センターには色々な関連性のある団体がありますので、そこに相談するのも一つの手ですし、今回若い方からお歳を召した方まで手を挙げて支援事業に携わって頂いたことは、江別の活性化にとっても役に立つと思っておりますので、自分たちの活動だけでなく他の活動とも手を結びながらいろいろな活動の幅を広げ、長く楽しく続けて頂けたらいいと思います。皆さん頑張って下さい。

【佐藤 功 氏】

「協働のまちづくり」ということはよく言われていますが、本当に皆さん自分を大事にしながら、そしてまちづくりのために何とかしようという気持ち、大変素晴らしいと思います。今後においても続けていかれたら大変嬉しく思います。今後ともよろしくお願いします。

【内田 司 氏】

江別に愛着を持って江別を元気にしたいという市民活動されている団体が、これだけあるということは、非常に貴重な財産だと思いますし、江別市の豊かさに繋がっているのかなと、選考、報告も含めて感じました。活動は自分の趣味でやっているかもしれませんが、いろいろな広範囲の人を巻き込んで、結果的として社会全体を元気にされているのかなと思いました。その活動されていることに対し、深く敬意を表したいと思います。私自身は大学生に教えておりますので、今の時代は若者や次の世代を担う子供たちに厳しい社会になりつつあるのではないかと感じています。結果として頑張ろうとしても挫折し、社会との接点を持たない若者が多く出てきているのではないかなと思います。若者が接点を持てるように皆さんも繋がりを求めているときは、是非ともお力添えになって欲しいと思います。お願いで申し訳ありませんが講評とさせていただきます。私自身も勉強させて頂きました。ありがとうございます。